

Title	老莊哲學 / 小柳司氣太著
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	1928
Jtitle	哲學 No.4 (1928. 8)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊案内
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000004-0236

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新刊紹介

老莊哲學（小柳司氣太著）

春秋より戦國にかけて社會と共に思想上の混亂を來たした支那に於て因襲打破・思想の自由を大衆に叫びかけた者に大孔子がある。孔子に對して出世間的超越的態度に於て思想の哲學的思索を事とした哲學者に老子及び其の流を汲む莊子の二天才が居る。古來老莊二子の思想は形而上學的であり、其の思想は難解であるとされてゐる。殊に莊子に至つては先秦諸子類中での最難解なるものとされて居る。我等讀書子がこの難解なる老莊の哲學の知解に志向せんとする時、常に原著に對する豫備的知識把握の爲めに解説の良書を求むること切である。世に老莊哲學の研究の書は其の數少なしとしない、而して其の何れが良書なるかの撰擇批評は區々たるも、見るところ此處に紹介せる小柳氏の老莊哲學の研究は老莊を知らんとする者の切なる要求を充足すること又多分であらう。殊に氏がソファに流れる煙草の煙の中に老莊の哲學を眺められて居られる様なさうした極めて自由な心持で難解な老莊の哲學に接して居られることは又老莊研究者に對しても屈托なき研究の興味を興へられて親しみ又大なるものがあらう。

該書の含む處の研究は主として六朝時代までの老莊思想である。乃ち分けて七篇となし、第一篇は支那古代の思想に就いて、第二篇は周代の文化に就いて叙述せられ、第三篇に至りて老莊二子の傳及び著書を示さる。第四篇老子の思想第五篇道家の起源及び第六篇魏晉時代の老莊學が此の書の中身、かくて終篇即ち第七篇に於て老莊思想の波及に就いて叙述せられて以てこの研究を了して居る。氏自ら解説批評は第二次的のものとして述べられてゐるが、然し氏の研究には自ら解説が自然的に萌へ出てゐる。これに依つてかくて直接老莊に接する時、該書の價值は自ら知られるであらう。

（發行所 甲子社書房 定價 貳圓）